

【続報】 宮城県離島の 復旧概況

本誌編集部

多くの犠牲者、被害を出した東日本大震災から半年が過ぎた。この間、被災地では行政、住民、ボランティア、NPOなどの努力によって、ライフラインの復旧や瓦礫撤去が進み、住民生活もだいたい落ち着きを取り戻ってきて

いる。九月八日付の『東日本大震災復旧・復興インデックス』(総合研究開発機構)によると、八月時点の宮城県全体の「生活基盤の復旧状況」指数は平均で七七・二パーセント、有人離島を有する県内四市町はそれぞれ気仙沼市(八八・〇)、石巻市(七七・七)、塩竈市(九〇・九)、女川町(六三・二)であり、生活基盤が震災前の状況に近づきつつあることがうかがえる。

しかし、有人離島九島へ目を移すと、今なお全住民が島外避難中の女川町・江島をはじめ、電気などが復旧していても島内に残っている家屋が少ないため、一部の住民しか帰島できていない同・出島など、本土地域よりも著しく復旧が遅れている地域が見受けられる。ただ、その他の七島では、ライフラインの復旧や仮設住宅などへの入居が進んだことで、避難所での避難生活者はいなくなつた。また、水産業の復興プロジェクトが本格的に始動するなど、少しずつではあるが復興へ向けた着実

な取り組みがはじまっている。

本号では、震災直後から半年間の島の動き(復旧過程)を整理したので、島の現況と合わせてここに報告していきたい。

■宮城県離島の 半年間の動きと現況

一〇月五日現在、本誌編集部で把握している宮城県離島の現況を整理した。なお、国、県、地元自治体や関係機関の公式発表などのほか、島の方々の声やホームページなども参考としているため、未確認事項も含まれていることに留意いただきたい。

●気仙沼市大島(人口三一三七人 ※平成二三年五月末日現在の住民登録人口)

「避難・住居」

・住民は、自宅や仮設住宅(大島中学校校庭・三五戸、大島国民休暇村・二八戸、新王平グラウンド・二五戸)、島内の空き家を借りて生活中。

「ライフライン」

・電気、上水道、電話（固定・携帯）は、津波で被災した地域を除き、復旧。下水道は、島内の漁業集落排水施設が被災したため、簡易処理により対応中。

「交通」

・大島汽船（気仙沼～大島）のカーフェリー、小型客船が一日一六便運航。
・津波で陸に打ち上げられた大島汽船のカーフェリー「亀山」及び旅客船「海来」がそれぞれ八月一七日、同一九日にサルベージ船のクレーンで海へ戻された。これにて陸に打ち上げられたすべての船舶のつり上げ作業が完了。これらの船は、造船所に運ばれ、修理・点検を得て本年一〇月中の就航再開を目指す。
・不定期船「ひまわり」が一日約七便運航。
・島内バス（浦の浜～新王平）が船の発着に合わせて一日約八便運行。

●女川町出島（人口五四九人 ※平成二〇

年四月一日現在の住民登録人口）

「避難・住居」

・島内に家屋が残っている寺間地区の一部の住民及び仮設住宅（四二戸）に入居した二九世帯が生活中。

「ライフライン」

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

「交通」（※出島、江島共通）

・シーパル女川汽船（女川～出島・江島）が、七月二五日から各島一日一便・週二日運航で再開。使用船舶は、旅客船「ベガ（一九トシ）」。安全確保のため定員は五五人。
・一〇月五日現在、女川～出島間一日二便（火・木・土曜）、女川～江島間一日一便（月・水曜）で運航。通常料金。

●女川町江島（人口一〇二人 ※平成二〇

年四月一日現在の住民登録人口）

「避難・住居」

・全住民が本土側で避難生活中。
・女川町市街や石巻市街の仮設住宅への入居も進んでいる模様。

「ライフライン」

・電気は、津波で被災した地域を除き、復旧。

「交通」（※出島参照）

●石巻市網地島（人口四七八人 ※平成二三年二月末日現在の住民登録人口）

「避難・住居」

・住民は自宅に戻り生活中。

「ライフライン」

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

「交通」（※航路は、網地島、田代島共通）

・網地島ライン（石巻～田代島・網地島）のカーフェリーが一日二便運航。
・島内バスが船の発着に合わせて一日二便運行。

●石巻市田代島（人口八七人 ※平成三三年二月末日現在の住民登録人口）

〔避難・住居〕

・住民は自宅に戻り生活中。

〔ライフライン〕

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

〔交通〕（※航路は、網地島参照）

・ボケットビーチ前の島内道路のかけ崩れは復旧。

〔復興プロジェクト〕

・田代島の漁業者有志が島の漁業再生に向けて発足した「にゃんこ・ザ・プロジェクト」の一口一万円のおーナー制度が目標数一万五〇〇〇口を達成。これにともない一口おーナー制への申し込みは一旦終了。

●塩竈市桂島（人口三二四人 ※平成二〇年四月一日現在の住民登録人口）

〔避難・住居〕

・住民は自宅や仮設住宅（旧浦戸第二小

学校・二二戸）にて生活中。

〔ライフライン〕

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

〔交通〕（※桂島、野々島、寒風沢島、朴島共通）

・塩竈市営汽船（塩竈→桂島・野々島・網地島・朴島）の定期船が一日五～六便運輸。

・島間を結ぶ渡船について、石浜（桂島）～野々島間は運輸を再開。野々島～寒風沢島間は震災の影響による桟橋破損のため運輸休止中。

〔復興プロジェクト〕（※桂島、野々島、寒風沢島、朴島共通）

・浦戸諸島の漁業再生に向けて、島の有志により発足した「うらと海の子再生プロジェクト」が、「一般社団法人うらと海の子再生プロジェクト」として法人化。

・プロジェクトの操業再開の糸口として創設した「うらと海の子一口おーナー制度」が、応募多数のため、一

時募集を終了。

●塩竈市野々島（人口一二人 ※平成二〇年四月一日現在の住民登録人口）

〔避難・住居〕

・住民は自宅や仮設住宅（字毛無崎地内・二五戸）にて生活中。

〔ライフライン〕

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

〔交通〕〔復興プロジェクト〕（※桂島参照）

●塩竈市寒風沢島（人口一八〇人 ※平成二〇年四月一日現在の住民登録人口）

〔避難・住居〕

・住民は自宅や仮設住宅（旧浦戸第一小学校・二二戸）にて生活中。

〔ライフライン〕

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）ともに津波で被災した地域を除き、復旧。

〔交通〕〔復興プロジェクト〕（※桂島参照）

●塩竈市^{塩竈市}朴島（人口三四人 ※平成二〇年

四月一日現在の住民登録人口）

〔避難・住居〕

・住民は自宅に戻り生活中。

〔ライフライン〕

・上下水道、電気、電話（固定・携帯）

ともに津波で被災した地域を除き、

復旧。

〔交通〕〔復興プロジェクト〕（※桂島参照）

表 震災直後から半年間の各島の動き

①気仙沼市大島

2011年 3月11日	午後2時46分頃、東日本大震災発生（地震規模 M9.0、気象庁観測史上最大）。この地震により発生した大津波により各離島に甚大な被害。家屋、漁業施設、漁船などの損壊、流失とともに、電気・水道・航路などのライフラインも断絶。島の住民 3,000 人のうち、約 1,000 人は仕事などのため島外で被災。残された高齢者や子どもを中心とする 2,000 人が島で孤立。島内数ヶ所の避難所へ。気仙沼港のタンクから漏れ出した重油により海上火災が発生。養殖筏などを経て島の山林にも延焼。
3月15日	船体の損傷を免れた小型客船「ひまわり（42 人乗り）」が本土間を不定期運航。1 日2～4 往復。島内7ヶ所の避難所に 1,340 人避難生活中。
3月27日	東北電力の電源車で一部の避難所（大島小・中学校）に通電開始。
3月30日	大島汽船（気仙沼～大島）の傭船した客船「はやぶさ（90 人乗り）」が1日8 便運航再開。片道 400 円。
4月4日	被災した一部の地域を除き固定電話回復。携帯電話も一部地域で使用可能。
4月5日	海底送水管で磯草地区への送水を開始し、磯草ポンプ場で給水作業を実施。
4月6日	被災した一部の地域を除き電気が復旧。大島航路が1日9 便に増便。
4月7日	路線バスが新王平～大島支所前～浦の浜で1日7～8 便運行再開。余震の影響で大島への海底送水管が漏水。
4月10日	広島県江田島市が気仙沼市からの要請を受け、同市の所有するフェリー「ドリームのうみ（300 人乗り、乗用車 20 台）」の貸し出しを決定。
4月11日	島内2ヶ所の避難所に 255 人避難生活中。

4月20日	フェリー「ドリームのうみ」の貸出期間が「6ヶ月間の無償貸与」に決定。5月中は住民が乗用車1台（4m未満）を往復で利用した場合、料金を通常の4,020円から半額の2,010円とする。
4月29日	大島中学校校庭の仮設住宅（35戸）の建設着工。
4月30日	フェリー「ドリームのうみ」が1日8便運航再開。片道400円/人。普通自動車3,000円/台。フェリー再開に合わせて、これまで1日9往復していた旅客船「はやぶさ」は同4往復に変更。
5月1日	大島汽船（気仙沼～大島）は客船「はやぶさ」からシーバル女川汽船の高速貨客船「しまなぎ（100人乗り）」に代え、1日5便で運航。不定期船「ひまわり」は、1日約7便運航。
5月2日	大島国民休暇村（広場）に仮設住宅の建設が決定。 フェリーの就航に伴い、家庭の可燃ごみや不燃ごみなどの、通常通りの指定日収集が再開。
5月6日	大島国民休暇村（広場）の仮設住宅（28戸）の建設着工。
5月7日	亀山荘、明海荘、リアス荘、黒潮、椿荘、国民休暇村の6宿泊施設が二次避難所として被災者の受入れを開始。176人が二次避難所に避難。
5月9日	気仙沼市が私有地の瓦礫・損壊家屋の撤去計画を公表。大島は5月16日より浦の浜、磯草、崎浜、新王平行政区から開始予定。
5月11日	一次避難所の大島小学校に9人、大島開発総合センターに35人避難生活中。二次避難所の7宿泊施設（亀山荘、明海荘、リアス荘、黒潮、椿荘、とらや、国民休暇村）に181名避難生活中。 上水道は、崎浜、要害、浅根、長崎、高井、田尻、廻立、外浜、新王平、大初平地域で全域通水。浦の浜、磯草、亀山地域で一部通水。その他の地域は配水池や配水管の点検修理をしながら順次通水予定。下水道は、漁業集落排水が被災したため、簡易処理により対応。電気は、津波で被災した地域を除き全域復旧。
5月16日	大島汽船（気仙沼～大島）が2便増便し、1日13便運航。
5月20日	新王平グラウンドの仮設住宅（25戸）の建設着工。
6月1日	大島汽船の旅客船が3便増便し、1日8便運航に。フェリーの運航（1日8便）と合せて1日16便運航。
6月6日	国民休暇村が営業再開。
6月11日	一次避難所の大島開発総合センターに26人避難生活中。二次避難所の7宿泊施設（亀山荘、明海荘、リアス荘、黒潮、椿荘、とらや、国民休暇村）に185名避難生活中。 上水道は、津波で被災した地域を除き全域通水。 公益社団法人 Civic Force が地元ボランティアグループ・大島復興チーム（通称おばか隊）ヘトレーターハウス14台を無償貸与。
6月15日	「大島絆新聞」第1号発刊。以降、月2回のペースで総計6回発行予定。

6月22日	大島中学校校庭及び大島国民休暇村広場の仮設住宅（それぞれ 35 戸、28 戸）の入居開始。入居期間は原則2年以内。家賃無料、光熱水費などは個人負担。
6月24日	公益社団法人 Civic Force が大島復興チームにコンテナハウス 20 戸を無償貸与。
7月10日	避難所以外での食料品の提供の終了。避難所以外に避難されており炊事が不可能な方については、市に申し出ることによりその状態が復旧するまでの間、食料品提供を継続。
7月11日	一次避難所の大島開発総合センターに 26 人避難生活中。二次避難所の6宿泊施設（亀山荘、明海荘、リアス荘、黒潮、とらや、国民休暇村）に 63 人避難生活中。
7月14日	新王平グラウンド（25 戸）の入居開始。
7月17日	公益社団法人 Civic Force が電動スクーターを、大島復興チームに無償貸与。
7月20日	一次避難所の大島開発総合センターの避難者は、すべて自宅、または二次避難所などへ移転。一次避難所生活者はゼロに。二次避難所は、3宿泊施設（黒潮、とらや、国民休暇村）に 18 人避難生活中。
8月11日	二次避難所の2宿泊施設（とらや、国民休暇村）に 14 人避難生活中。下水処理施設の処理機能が完全に停止中。大島地区では、8月9日より二次処理（生物処理・沈殿・塩素滅菌）後放流中。
8月17日	津波で陸に打ち上げられていた大島汽船の船をクレーンでつり上げ、海へ戻す作業を開始。フェリー「亀山」（定員 250 人）の作業を完了。
8月19日	大島汽船所有の旅客船「海来（定員 300 人）」のつり上げ作業の実施・完了。これに伴い、津波で陸に打ち上げられたすべての船舶のつり上げ作業が完了。
9月21日	避難所生活者がゼロに。
9月26日	愛媛県新居浜市が同市の所有するフェリー「おおしま（200 人乗り、乗用車 8 台）」の大島汽船への無償譲渡を決定。譲渡時期は 11 月頃の予定。
10月5日	フェリー「ドリームのうみ」の貸出期間が平成 24 年 3 月 15 日まで延長。

②女川町出島・江島

2011 年 3月11日	出・江：家屋、漁業施設、漁船などの損壊、流失とともに、電気・水道・航路などのライフラインも断絶。 出島：約 400 人の住民が孤立。 江島：約 90 人の住民が孤立。
3月12日	出島：孤立していた住民約 400 人が自衛隊の大型ヘリで本土側へ避難。うち約 300 人が石巻商業高校や石巻北高校など石巻市内数ヶ所の避難所へ。
3月16日	江島：孤立していた全住民 90 人が自衛隊のヘリで本土側へ避難。52 人が女川第一中学校へ。

3月23日	出島：全住民の本土側への避難完了。航路事業者（シーバル女川汽船）が被災、出島及び江島に住民がいないため航路再開は未定。
3月25日	出島：住民100人ほどが一時帰島。
4月7日	出島：震災直後から石巻市に集団避難していた住民150人のうち約90人が女川町立第一小学校の避難所へ移転。
4月11日	出・江：全住民が島外で避難生活中。ライフラインはすべて未復旧。携帯電話は島内一部のエリアのみ使用可能。一部、自身の船で一次帰島している住民もある模様。
5月25日	出島：女川町が出島の仮設住宅建設計画を公表。出島地区38戸、寺間地区21戸建設予定。建設場所及び完成予定時期等は未定。
5月27日	出島：女川町復興計画公聴会（出島地区）を開催。
6月6日	出・江：女川町企画課復興推進室特設ページを開設。
6月11日	出島：一部、帰島して島で生活を送る住民もいる様子。ボランティアによる瓦礫撤去作業を実施しているが、あまり進んでいない状態。重機が入れず手作業なうえ潮の干満の関係で1日6時間程度しか作業できないため。
6月18日	出・江：東北電力が、出島で配電設備の改修作業を6月14日で終え、着手可能な全地域で通電したと発表。江島は未復旧。
7月7日	出・江：船員8名のうち1名が、陸員5名のうち3名が亡くなったため、再開が遅れているシーバル女川汽船は、宮城県松島町、山形県酒田市の船会社から事務系の人員を1名ずつ派遣してもらい運航再開に向けて取り組む。7月末の再開が目標。
7月11日	出島：全住民が島外で避難生活中。住民の多くは、女川町立第一小学校にて避難生活を送っている模様。また、女川町および石巻市街の仮設住宅への入居も進んでいる模様。一部、帰島して島で生活を送る住民もいる様子。ライフラインは電気のみ復旧。 江島：全住民が島外で避難生活中。島のライフラインは全く復旧していない。住民の多くは、特定の避難所ではなく、それぞれが各地の避難所にて生活中。また、女川町および石巻市街の仮設住宅への入居も進んでいる模様。一部、自身の船で一時帰島している住民もある模様。
7月20日	出・江：女川町が復興基本計画（骨子）を作成。住民の意向を踏まえたうえで、集約化などによる新しい居住地のあり方を検討。
7月21日	出島：女川町が出島の全地区にて水道・電気・電話がほぼ復旧したと公表。しかし、島内に通水・通電可能な家屋自体が少ない状態。 江島：ライフラインは依然としてすべて未復旧。
7月25日	出・江：シーバル女川汽船、暫定ダイヤで運航を再開。使用船舶はベガ（定員55人）で座席は先着順。当面（再開から3週間）の間の乗船料は無料。また、定員を確保するため、荷物は本人が持てる手荷物のみ。 江島行き：毎週月・水曜日に1日1便運航。 出島・寺間行き：週2回火・木曜日に1日1便運航。

7月27日	出島：島内に重機を搬入。瓦礫撤去とともに仮設住宅の建設着工。出島地区と寺間地区の中間にある高台に42戸建設。9月中旬完成予定。
8月11日	出島：島内寺間地区に5世帯ほどの住民が帰宅し生活している模様。出島地区の帰宅者はなし。仮設住宅（42戸）が建設着工中であるが、学校へ通う子どものいる家庭は、すでに本土側の学校に通っており、今後、島へ戻る可能性は低い。 江島：全住民が島外（特に石巻市街）で避難生活中。定期船にて一時帰島する住民も多数。ライフラインはすべて未復旧の状態。特に上水道は海底送水管の被害が大きく、島へ水を送ることができない状態。そのためタンカーによる海水の淡水化などの検討が必要。
8月15日	出：江：運輸局の定める運航再開後3週間の航路運賃免除期間終了。しかし、シーバル女川汽船の経営自体に人手が不足しているため、乗船客から料金を徴収しても管理できない状態。そのため、今後も料金を収受せず無料にする方針。経費負担に関しては今後検討。
8月17日	出島：シーバル女川汽船の出島・寺間行きが1便増し、毎週火・木曜日の1日2便運航に。
10月5日	出島：仮設住宅（42戸）に29世帯、寺間地区に数世帯住民が帰宅し生活している模様。水道・電気・電話などのライフラインは復旧。シーバル女川汽船の出島・寺間行きが毎週火・木・土曜、1日2便運航に。10月1日より通常料金。 江島：全住民が島外（特に石巻市街）で避難生活中。定期船にて一時帰島する住民も多数。電気が復旧し、それにとめない海水の淡水化の実験を開始。

③石巻市網地島・田代島

2011年 3月11日	網・田：家屋、漁業施設、漁船などの損壊、流失とともに、電気・水道・航路などのライフラインも断絶。 網地島：住民は、島内2地区（網地・長渡）にそれぞれ分かれて避難。 田代島：住民は高台にある「マンガアイランド」に避難。
3月19日	田代島：観光客（6人）及び津波で家を破壊された住民が、自衛隊ヘリにより本土側へ移送。
3月22日	網・田：網地島ライン（石巻～田代島～網地島）が試験的運航を実施。旅客は乗せずに1日1便運航。結果が良好であれば3月24日より1日1便で運航再開。
3月23日	田代島：マンガアイランドの避難者はなくなり、全員自宅へ帰宅。
3月24日	網・田：網地島ラインのカーフェリー「マーメイド（212人乗り）」が石巻工業港～田代島（仁斗田港）～網地島（網地港）で、1日1便運航再開。スクルーへの巻き込み被害防止などのため、船にはタイバーが同乗。3月中は無料運航。
3月25日	網地島：東北電力の電源車で島内全域への仮通電開始（1日10時間程度）。 田代島：東北電力の電源車で島内一部地域への仮通電開始（1日8時間程度）。
4月10日	網地島：被災した一部の地域を除き固定電話回復。ただし停電の影響を受けるため、使えない時間帯あり。携帯電話は一部地域を除き使用可能。

4月11日	網地島：網小医院などに十数人避難生活中。電気は電源車により1日10時間程度。水は、石巻市が飲料水を3日ごとに1人当たり3ℓを配給。そのほか、島内の井戸水も併用。し尿などは震災前から汲み取り式。 田代島：電気は電源車により1日8時間程度。水は、石巻市が飲料水を配給。そのほか、島内の井戸水も併用。し尿などは震災前から汲み取り式。固定電話は未復旧。携帯電話は一部利用可能。
4月14日	網地島：島内バスが1日2便で運行再開。
4月16日	網・田：網地島ラインが1日2便に増便。料金は通常通りに。
4月20日	田代島：被災した一部の地域を除き固定電話回復。ただし停電の影響を受けるため、使えない時間帯あり。
4月25日	網・田：生活水を3日に一度、飲料水を週に一度を供給。支援物資の提供を3日に一度から週に一度に変更。
5月5日	網地島：上水道の一部試験通水開始。
5月7日	網地島：網小医院の避難者はなくなり、全員自宅へ帰宅。
5月11日	網地島：上水道は一部地域で試験的に通水。水は、石巻市が生活水を3日に一度、飲料水及びその他物資を週に一度供給。電気は電源車により1日10時間程度供給。 田代島：水は、石巻市が生活水を3日に一度、飲料水及びその他物資を週に一度供給。電気は電源車により1日8時間程度供給。
5月16日	田代島：上水道、一部試験通水開始。
5月19日	網地島：上水道は、一部地域を除き復旧。物資供給終了。
5月20日	網地島：電源車による電気の供給が、1日13時間程度に延長。
5月23日	網地島：「網地災害対策本部」「長渡災害対策本部」は解散。以後、「網地島災害対策本部」として継続。
5月24日	網・田：電気が電源車による24時間供給に。
5月26日	網地島：上水道は全域で通水。
6月10日	田代島：にゃんこ・ザ・プロジェクト（一口支援基金）設立。
6月11日	網地島：電源車による24時間以外のライフラインはほぼ復旧。 田代島：電源車による24時間及び上水道が未復旧。
6月18日	網地島：網地漁港栈橋のかさ上げ工事に着手。
6月24日	網・田：石巻市が都市基盤復興「災害に強いまちづくり（基本構想）案」提示。
7月5日	網地島：網地島沿岸で、日本財団と東京大学などの共同による水中探査ロボットを使った海中の撮影調査など海の再生支援プロジェクト（海の再生力探査事業）を実施。

7月8日	田代島：島内一部地域から試験通水開始。
7月9日	田代島：上水道が復旧。
7月11日	網地島：電源車による24時間以外のライフラインはほぼ復旧。 田代島：電源車による24時間及び上水道が未復旧。ポケットビーチ前の道路ががけ崩れにより通行不可。物資供給終了。
7月14日	網地島：電気の供給が電源車から完全復旧した海底ケーブルに切り替え。
7月15日	田代島：電気の供給が電源車から完全復旧した海底ケーブルに切り替え。
8月2日	田代島：にゃんこ・ザ・プロジェクトによって購入した種ガキを、カキ棚に吊り下げ。
8月4日	網地島：網地漁港棧橋のかさ上げが終了し、使用再開。潮の干満に概ね関係なく荷物の積み下ろしが可能に。長渡漁港のかさ上げ工事については、進行中。
8月11日	網地島：ライフラインはほぼ復旧。島内道路の一部に亀裂があるが通行は可能。 田代島：ライフラインはほぼ復旧。ポケットビーチ前の道路を復旧作業中。
8月14日	網地島：網地漁港のかさ上げ工事終了に伴い、カーフェリー「マーメイド」での車両の積み下ろしが再開。
8月22日	田代島：ポケットビーチ前の島内道路が仮復旧。
8月29日	田代島：にゃんこ・ザ・プロジェクトが、目標数の15,000口を達成（最終申し込み者数13,349人、申し込み口数15,059口）。同時に同プロジェクトの一口カキオーナー制の申し込みは一旦終了。
10月5日	網・田：網地島ライン、カーフェリー「マーメイド」を1日2便で運航中。

④塩竈市桂島・野々島・寒風沢島・朴島

2011年 3月11日	浦戸諸島：家屋・漁業施設・漁船などの損壊、流失とともに、電気・水道・航路などのライフラインも断絶。 桂島：住民約240人が旧浦戸第二小学校に避難。 野々島：住民約300人は浦戸中学校に避難。 寒風沢島：住民は島内の旧浦戸第一小学校と松林寺、寒沢寺などに分かれて避難。 朴島：住民約10人は高台の施設（民家）へ避難。
3月26日	桂島：塩竈市営定期船（塩竈～浦戸諸島）の客船「うらと（89人乗り）」が塩竈～桂島（石浜）で、1日2便運航再開。無料。
3月27日	桂島：本土からの海底送水により給水再開。
4月7日	浦戸諸島：電線復旧作業開始。現在、桂島は電源車にて電力供給。その他の3島は発電機などで対応。
4月8日	浦戸諸島：浦戸地区における被災者支援に関する説明会開催（旧浦戸第二小学校）。

4月11日	<p>桂島：旧浦戸第二小学校に190人避難生活中。上水道は、島内2集落への給水が可能。下水道は、被害が出た合併浄化槽について、今後、被害調査実施予定。電気は、電源車にて対応。固定電話はサービス中断中。</p> <p>野々島：浦戸中学校に79人避難生活中。上水道は、海底排水管路の調査に着手。現在は、海水浄化装置を実験的に使用中。下水道は、被害が出た漁業集落排水処理施設について、今後、被害調査実施予定。電気は、発電機などで対応。固定電話はサービス中断中。</p> <p>寒風沢島：旧浦戸第一小学校に107人避難生活中。上水道は、海底排水管路の調査に着手。下水道は、被害が出た漁業集落排水処理施設について、今後、被害調査実施予定。電気は、発電機などで対応。固定電話はサービス中断中。</p> <p>朴島：11人が島内の避難所（民家）で避難生活中。上水道は、海底排水管路の調査に着手。下水道は、被害が出た合併浄化槽について、今後、被害調査実施予定。電気は、発電機などで対応。固定電話はサービス中断中。</p>
4月13日	<p>浦戸諸島：塩竈市営汽船が寄港地と便数を拡大。塩竈港～桂島～石浜～野々島～寒風沢島を1日4～6往復。朴島へは、市営汽船を野々島で下船し、野々島発の朴島行き地元有志の連絡船へ乗換え。当面は料金無料。</p>
4月19日	<p>桂島：自衛隊の瓦礫撤去活動より、桂島の棧橋から海水浴場までの道路が確保。</p>
4月21日	<p>野々島：上水道の通水再開。</p> <p>寒・朴：上水道は、海水浄化装置を使用。</p>
4月25日	<p>寒風沢島：上水道の通水再開。</p> <p>朴島：ボーイスカウトのボランティアによる瓦礫撤去作業実施。</p>
4月26日	<p>浦戸諸島：仮設住宅設置場所についての市の方針が決定。桂島は旧浦戸第二小学校、野々島は字毛無崎地内、寒風沢島は旧浦戸第一小学校に設置。戸数などについては県と協議中。</p> <p>野・寒・朴：電気は、避難所を含む一部地域で電源車による仮復旧。</p>
5月6日	<p>朴島：上水道は通水再開。</p>
5月11日	<p>桂島：旧浦戸第二小学校に37人避難生活中。</p> <p>野々島：浦戸中学校に40人避難生活中。</p> <p>寒風沢島：旧浦戸第一小学校避難に30人避難生活中。</p> <p>朴島：避難所である民家から自宅へ帰宅。</p>
5月16日	<p>桂・野・寒：仮設住宅の建設が決定。桂島は旧浦戸第二小学校に21戸、野々島は字毛無崎地内に15戸、寒風沢島は旧浦戸第一小学校に12戸。</p>
5月20日	<p>桂・野・寒：仮設住宅の建設着工。</p>
6月1日	<p>浦戸諸島：塩竈市営汽船が朴島までの運航を再開。1日4～6便。これに伴い通常料金に。</p>
6月6日	<p>桂島：みやぎ生協が桂島での共同購入配達を開始。</p>
6月11日	<p>桂島：旧浦戸第二小学校に40人避難生活中。ライフラインはほぼ復旧した模様。</p> <p>野々島：浦戸中学校に22人避難生活中。ライフラインはほぼ復旧した模様。</p>

6月11日	寒風沢島:旧浦戸第一小学校に19人避難生活中。ライフラインはほぼ復旧した模様。 朴島:ライフラインはほぼ復旧した模様。
6月21日	桂・野・寒:浦戸3島について、平成23年度の海水浴場の開設を見送ることが決定。
7月1日	桂・寒:仮設住宅への入居開始。
7月3日	桂島:一次避難所の生活者がゼロに。
7月4日	桂・野:野々島(漁港)~石浜間の運航再開。
7月9日	野々島:仮設住宅への入居開始。
7月11日	浦戸諸島:うらと海の子再生プロジェクトが「一般社団法人 うらと海の子再生プロジェクト」として法人化。 野々島:避難所での生活者はなくなった模様。島内2ヶ所に設置された防災無線が未復旧。 寒風沢島:避難所での生活者はなくなった模様。 朴島:ライフラインはほぼ復旧。
7月12日	野々島:仮設住宅完成に伴い、避難所の閉所式を開催。
7月21日	野々島:塩竈市浦戸諸島開発総合センター(ブルーセンター)・浦戸診療所が再開。
8月13日	寒風沢島:みやぎ生協が寒風沢島への共同購入配達を開始。
8月18日	浦戸諸島:島の住民の買い物や通院などの移動のために、塩竈市が本土側での無料レンタサイクル6台の貸出(当日返却)を開始。
8月22日	浦戸諸島:一部の便にて桂島で乗り換え運航(中型船→小型船)となっていた塩竈発下り第3便(月~金)及び朴島発上り第4便(月~金)について、乗り換えなしでの試験運航を実施。
10月5日	浦戸諸島:塩竈市営汽船が1日5~6便運航中。島間を結ぶ渡船について、石浜(桂島)~野々島間は運航を再開。野々島~寒風沢島間は震災の影響による栈橋破損のため運航休止中。